学校コード F127310108107
注３

設置年度　令和　５年度

計画の区分：　学部の学科の設置
注１

届出

注2
関西外国語大学　国際共生学部　国際共生学科

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書
（改正前大学設置基準適用）

学校法人関西外国語大学
令和５年５月１日現在

作成担当者

担当部局（課）名	学長室
職名・氏名	課長（カチョウ）　西川（ニシカワ）　拓馬（タクマ）
電話番号	072-805-2801（内線：1272）
（夜間）	072-805-2801（内線：1272）
ｅ－mail	rmprsdnt@kansaigaidai.ac.jp

（注）１　「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

２　大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院　・・・」と記入してください。
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
（　　）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。
例）　〇〇大学　△△学部　□□学科
（旧名称：◇◇学科（平成◇◇年度より学科名称変更））
表題は「計画の区分」に従い、記入してください。
例）
・大学の設置の場合：「〇〇大学」
・学部の設置の場合：「〇〇大学　△△学部」
・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学　△△学部　□□学科」
・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学　△△学科」
・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院　〇〇研究科」
・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院　〇〇研究科　〇〇専攻（修士課程）」
・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学　△△学部　□□学科（通信教育課程）」

３　学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。
なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、
当該番号を記載してください。
https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

国際共生学部

＜国際共生学科＞　　ページ

１．調査対象大学等の概要等　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１
２．授業科目の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５
３．施設・設備の整備状況、経費　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１１
４．既設大学等の状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１２
５．教員組織の状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１３
６．附帯事項等に対する履行状況等　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２０
７．その他全般的事項　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２１
８．資料　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２５

1　調査対象大学等の概要等

（1）設　置　者

学校法人関西外国語大学

（2）大　学　名

関西外国語大学

（3）調査対象大学等の位置

〒573－1001
大阪府枚方市中宮東之町16番1号

（注）・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を（　）書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

（4）管理運営組織

職　　名	設　　置　　時	変　更　状　況	備　　考
理 事 長	（ タニモト　エイコ ） 谷本　榮子 （平成20年10月）		
学　　長	（ オオバ　ユキオ ） 大庭　幸男 （令和2年4月）		
学 部 長			
学 科 長	（ ボアカー　リンダ ） BOHAKER, Linda A. （令和5年4月）		

（注）・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を（　）書きで記入してください。
（例）令和４年度に報告済の内容　→（４）
令和５年度に報告する内容　→（５）
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載（昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正）するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

（５）　調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

（注）・　当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
・　なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
・　様式は、平成３０年度開設の４年制の学科が完成年度を越えて報告する場合（令和５年度までの６年間）ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が７年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
・　留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
・　短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

（５）－①　調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
国際共生学部 国際共生学科 学士（国際共生）	文学関係 経済学関係	4 年	70 人	2年次 0 人 3年次 30 人 4年次 0 人	340 人		

（注）・　定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（　）書きで記入してください。
・　基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
・　「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第２号（その２の１））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
・　学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。（学生募集停止を予定していない場合は「－」を選択。）

（５）－②　調査対象学部等の入学者の状況

区分＼対象年度	平成３０年度		令和元年度		令和２年度		令和３年度		令和４年度		令和５年度		平均入学定員超過率	平均入学定員超過率（控除後）	収容定員充足率	収容定員充足率（控除後）	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期					
Ａ　入学定員	人 — （ — ） [—]	人	人 — （ — ） [—]	人	人 — （ — ） [—]	人	人 — （ — ） [—]	人	人 — （ — ） [—]	人	人 70 （ — ） [※]	人 （ 30 ） [※]	1.05倍	— 倍	1.05倍	— 倍	※出願・入試の段階において、留学生の状況は把握せず。（入学手続時に調査を行う）
志願者数	— （ — ） [—]	— （ — ） [—]	— （ — ） [—]	— （ — ） [—]	— （ — ） [—]	— （ — ） [—]	— （ — ） [—]	— （ — ） [—]	— （ — ） [—]	— （ — ） [—]	1,453 （ — ） [※]	— （ — ） [—]					
受験者数	— （ — ） [—]	— （ — ） [—]	— （ — ） [—]	— （ — ） [—]	— （ — ） [—]	— （ — ） [—]	— （ — ） [—]	— （ — ） [—]	— （ — ） [—]	— （ — ） [—]	1,417 （ — ） [※]	— （ — ） [—]					
合格者数	— （ — ） [—]	— （ — ） [—]	— （ — ） [—]	— （ — ） [—]	— （ — ） [—]	— （ — ） [—]	— （ — ） [—]	— （ — ） [—]	— （ — ） [—]	— （ — ） [—]	202 （ — ） [※]	— （ — ） [—]					
Ｂ　入学者数	— （ — ） [—]	— （ — ） [—]	— （ — ） [—]	— （ — ） [—]	— （ — ） [—]	— （ — ） [—]	— （ — ） [—]	— （ — ） [—]	— （ — ） [—]	— （ — ） [—]	74 （ — ） [1]	— — [—]					
入学定員超過率 Ｂ／Ａ	—		—		—		—		—		1.05						

（注）・　報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
・　調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「－」を記入してください。
・　（　）内には、編入学の状況について**外数で**記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、（（　））書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。 該当がない年度には「－」を記入してください。
・　転入学生は記入しないでください。
・　［　］内には、留学生の状況について**内数で**記入してください。該当がない年度には「－」を記入してください。
・　学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「－」を記入してください。
また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
・　「入学定員超過率」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出**してください。
なお、計算の際は小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで記入してください。
・　「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。
計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
・　「平均入学定員超過率（控除後）」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第２項及び第４項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。
なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を越える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「－」としてください。
・　「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における５月１日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和６年度開設用）Ⅳ.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
なお、計算の際は小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
・　「収容定員充足率（控除後）」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第１条第２項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第２項及び第４項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を越える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「－」としてください。

（５）－③　調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 / 学　年	平成３０年度		令和元年度		令和２年度		令和３年度		令和４年度		令和５年度		備　　考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
１年次											74 [1] (—)	— [—] (—)	
２年次													
３年次											— [—] (—)	— [—] (—)	
４年次													
計											74 [1] (—)		

（注）・　報告年度の５月１日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
・　[　　]内には、留学生の状況について、**内数で**記入してください。該当がない年度には「－」を記入してください。
・（　）内には、留年者の状況について、**内数で**記入してください。該当がない年度には「－」を記入してください。
・　編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
・　学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「－」を記入してください。
また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
・　「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

（５）－④　調査対象学部等の退学者等の状況

区分 / 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳 入学した年度	内訳 退学者数	内訳 うち留学生数	主な退学理由（留学生の理由は[ ]書き）
平成30年度	― 人	― 人	平成30年度	― 人	― 人	
令和元年度	― 人	― 人	平成30年度	― 人	― 人	
			令和元年度	― 人	― 人	
令和2年度	― 人	― 人	平成30年度	― 人	― 人	
			令和元年度	― 人	― 人	
			令和2年度	― 人	― 人	
令和3年度	― 人	― 人	平成30年度	― 人	― 人	
			令和元年度	― 人	― 人	
			令和2年度	― 人	― 人	
			令和3年度	― 人	― 人	
令和4年度	― 人	― 人	平成30年度	― 人	― 人	
			令和元年度	― 人	― 人	
			令和2年度	― 人	― 人	
			令和3年度	― 人	― 人	
			令和4年度	― 人	― 人	
令和5年度	74 人	0 人	平成30年度	― 人	― 人	
			令和元年度	― 人	― 人	
			令和2年度	― 人	― 人	
			令和3年度	― 人	― 人	
			令和4年度	― 人	― 人	
			令和5年度	0 人	0 人	
合　計		0 人		0 人	0 人	

（注）・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。（在学者数から退学者数を減らす必要はありません。）
・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下（〇人）」というように、その人数も含めて記入してください。
（記入項目例）・就学意欲の低下　・学力不足　・他の教育機関への入学・転学　・海外留学
・就職　・学生個人の心身に関する事情　・家庭の事情　・除籍　・その他

（５）－⑤　調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

平成30年度の退学者数(a) / 平成30年度の在学者数(b) = ― / ― = － %

【令和元年度】

令和元年度の退学者数(a) / 令和元年度の在学者数(b) = ― / ― = － %

【令和2年度】

令和2年度の退学者数(a) / 令和2年度の在学者数(b) = ― / ― = － %

【令和3年度】

令和3年度の退学者数(a) / 令和3年度の在学者数(b) = ― / ― = － %

【令和4年度】

令和4年度の退学者数(a) / 令和4年度の在学者数(b) = ― / ― = － %

【令和5年度】

令和5年度の退学者数(a) / 令和5年度の在学者数(b) = 0 / 74 = 0 %

（注）・ 小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。

２　授業科目の概要

＜国際共生学部　国際共生学科＞

（１）ー① 授業科目表

【届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	兼任・兼担	
専門必修科目	[English for Global Citizens 科目群]											
	Academic Writing Ⅰ	1前	4					2				
	Academic Writing Ⅱ	1後	4					2				
	Integrated Language Skills	1前	4					1			1	
	Interpersonal Communication	1後	4					3				
	Global Communication Ⅰ	1前	4					1				
	Global Communication Ⅱ	1後	4					2				
	Language & Society	2前	4					1				
	Diversity & Equality in Contemporary Literature	2後	4					4				
	小計(8科目)	－	32	0	0	0	0	5	0	0	1	
専門選択必修科目	Digital Literacy Ⅰ	1前	4				1					
	Digital Literacy Ⅱ	1後	4				1					
	Foundation for Global Engagement A	2前･後		4		1						※1
	Foundation for Global Engagement B	2前･後		4		1						※1
	Foundation for Global Engagement C	2前･後		4			1					※1
	Capstone A	4後		4		1						※2
	Capstone B	4後		4		1						※2
	Capstone C	4後		4		1						※2
	小計(8科目)	－	8	24	0	4	2	0	0	0	0	
専門選択科目	[Humanities 科目群]											
	Survey in Literature Ⅰ	1後･2前		4		1						
	History of Asia Ⅰ	1後･2前		4			1					
	Topics in Art Ⅰ	1後･2前		4							1	
	Survey in Literature Ⅱ	2前･後		4		1						
	Art Across Cultures	2前･後		4							1	
	Intercultural Communication	2前･後		4			1					
	Topics in Literature	3前･後		4		1						
	Japanese Literature	3前･後		4							1	
	History of Asia Ⅱ	3前･後		4			1					
	Topics in History	3前･後		4			1					
	Topics in Art Ⅱ	3前･後		4							1	
	Media and Culture A	3前･後		4							1	
	Media and Culture B	3前･後		4							1	
	Religion and Philosophy	3前･後		4			1					
	Seminar in Philosophy	3前･後		4			1					
	Seminar in Religion	3前･後		4			1					
	Japanese	1前･後		6				1				
	Japanese Reading & Writing	1前･後		4				1				
	[Social Sciences 科目群]											
	Survey in International Politics	1後･2前		4		1						
	Introduction to Cultural Anthropology	1後･2前		4							1	
	Survey in Sociology	1後･2前		4		1						
	Foreign Policy	2前･後		4							1	
	International Politics	2前･後		4							1	
	Global Service Learning	2前･後		4			1					
	Comparative Politics Ⅰ	2前･後		4							1	
	Global Diplomacy and Asia	3前･後		4		1						
	History of International Politics	3前･後		4		1						
	Cultural Anthropology	3前･後		4							1	
	Topics in Sociology	3前･後		4							1	
	Comparative Politics Ⅱ	3前･後		4							1	
	Globalization and Identity	3前･後		4							1	
	International Organizations	3前･後		4		1						

【令和５年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	兼任・兼担	
専門必修科目	[English for Global Citizens 科目群]											
	Academic Writing Ⅰ	1前	4					2				
	Academic Writing Ⅱ	1後	4					2				
	Integrated Language Skills	1前	4					1			1	
	Interpersonal Communication	1後	4					3				
	Global Communication Ⅰ	1前	4					1				
	Global Communication Ⅱ	1後	4					2				
	Language & Society	2前	4					1				
	Diversity & Equality in Contemporary Literature	2後	4					4				
	小計(8科目)	－	32	0	0	0	0	5	0	0	1	
専門選択必修科目	Digital Literacy Ⅰ	1前	4			1	0					
	Digital Literacy Ⅱ	1後	4			1	0					
	Foundation for Global Engagement A	2前･後		4		1						※1
	Foundation for Global Engagement B	2前･後		4		1						※1
	Foundation for Global Engagement C	2前･後		4			1					※1
	Capstone A	4後		4		1						※2
	Capstone B	4後		4		1						※2
	Capstone C	4後		4		1						※2
	小計(8科目)	－	8	24	0	5	1	0	0	0	0	
専門選択科目	[Humanities 科目群]											
	Survey in Literature Ⅰ	1後･2前		4		1						
	History of Asia Ⅰ	1後･2前		4			1					
	Topics in Art Ⅰ	1後･2前		4							1	
	Survey in Literature Ⅱ	2前･後		4		1						
	Art Across Cultures	2前･後		4							1	
	Intercultural Communication	2前･後		4			1					
	Topics in Literature	3前･後		4		1						
	Japanese Literature	3前･後		4							1	
	History of Asia Ⅱ	3前･後		4			1					
	Topics in History	3前･後		4			1					
	Topics in Art Ⅱ	3前･後		4							1	
	Media and Culture A	3前･後		4							1	
	Media and Culture B	3前･後		4							1	
	Religion and Philosophy	3前･後		4			1					
	Seminar in Philosophy	3前･後		4			1					
	Seminar in Religion	3前･後		4			1					
	Japanese	1前･後		6				1				
	Japanese Reading & Writing	1前･後		4				1				
	[Social Sciences 科目群]											
	Survey in International Politics	1後･2前		4		1						
	Introduction to Cultural Anthropology	1後･2前		4							1	
	Survey in Sociology	1後･2前		4		1						
	Foreign Policy	2前･後		4							1	
	International Politics	2前･後		4							1	
	Global Service Learning	2前･後		4			1					
	Comparative Politics Ⅰ	2前･後		4							1	
	Global Diplomacy and Asia	3前･後		4		1						
	History of International Politics	3前･後		4		1						
	Cultural Anthropology	3前･後		4							1	
	Topics in Sociology	3前･後		4							1	
	Comparative Politics Ⅱ	3前･後		4							1	
	Globalization and Identity	3前･後		4							1	
	International Organizations	3前･後		4		1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	兼任・兼担	
専門選択科目	Sustainable Development A	3前･後		4		1						
	Sustainable Development B	3前･後		4		1						
	Comparative Cultures	3前･後		4		1						
	[Business & Economics 科目群]											
	Introduction to Marketing	1後･2前		4							1	
	Introduction to Microeconomics	1後･2前		4							1	
	Introduction to Macroeconomics	1後･2前		4		1						
	Principles of Business	2前･後		4							1	
	Global Economics	2前･後		4		1						
	Economic Development Ⅰ	2前･後		4							1	
	Global Marketing	3前･後		4							1	
	Economic Development Ⅱ	3前･後		4		1						
	Global Management	3前･後		4		1						
	Topics in Management	3前･後		4							1	
	International Business	3前･後		4		1						
	Topics in Japanese Business	3前･後		4		1						
	International Negotiation	3前･後		4							1	
	Global Leadership	3前･後		4		1						
	[Global Issues 科目群]											
	Global Issues A	2前･後		4		1						※3
	Global Issues B	2前･後		4							1	※3
	Global Issues C	2前･後		4							1	※3
	Global Issues D	2前･後		4							1	※3
	Global Issues E	2前･後		4							1	※3
	[Experiential Learning 科目群]											
	Global Internship A	1･2･3前･後		1		1						※4
	Global Internship B	1･2･3前･後		2		1						※4
	Global Internship C	1･2･3前･後		2		1						※4
	Global Internship D	1･2･3前･後		5		1						※4
	Community Engagement A	1･2･3前･後		1		1						※4
	Community Engagement B	1･2･3前･後		2		1						※4
	Community Engagement C	1･2･3前･後		2		1						※4
	Community Engagement D	1･2･3前･後		5		1						※4
	Global Service Learning A	1･2･3前･後		1			1					※4
	Global Service Learning B	1･2･3前･後		2			1					※4
	Global Service Learning C	1･2･3前･後		2			1					※4
	Global Service Learning D	1･2･3前･後		5			1					※4
	小計(66科目)	－	0	248	0	7	3	1	0	0	14	
合計(82科目)		－	40	272	0	7	4	6	0	0	15	

卒業要件及び履修方法

専門教育科目
専門必修科目　32単位
専門選択必修科目　20単位
専門選択科目　72単位
「Humanities科目群」「Social Sciences科目群」「Business & Economics　科目群」の各群から8単位以上を修得しなければならない。(履修科目の登録の上限:各セメスター間24単位)

備考※1:「Foundation for Global Engagement A～C」のうち2科目を修得しなければならない。
備考※2:「Capstone A～C」のうち1科目を修得しなければならない。
備考※3:留学準備教育のための授業・留学中の学修等について単位認定を行う科目。
備考※4:国内外のインターンシップ、ボランティア、サービスラーニング活動における学修(事前・事後指導含む)等について単位認定を行う科目。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	兼任・兼担	
専門選択科目	Sustainable Development A	3前･後		4		1						
	Sustainable Development B	3前･後		4		1						
	Comparative Cultures	3前･後		4		1						
	[Business & Economics 科目群]											
	Introduction to Marketing	1後･2前		4							1	
	Introduction to Microeconomics	1後･2前		4							1	
	Introduction to Macroeconomics	1後･2前		4		1						
	Principles of Business	2前･後		4							1	
	Global Economics	2前･後		4		1						
	Economic Development Ⅰ	2前･後		4							1	
	Global Marketing	3前･後		4							1	
	Economic Development Ⅱ	3前･後		4		1						
	Global Management	3前･後		4		1						
	Topics in Management	3前･後		4							1	
	International Business	3前･後		4		1						
	Topics in Japanese Business	3前･後		4		1						
	International Negotiation	3前･後		4							1	
	Global Leadership	3前･後		4		1						
	[Global Issues 科目群]											
	Global Issues A	2前･後		4		1						※3
	Global Issues B	2前･後		4							1	※3
	Global Issues C	2前･後		4							1	※3
	Global Issues D	2前･後		4							1	※3
	Global Issues E	2前･後		4							1	※3
	[Experiential Learning 科目群]											
	Global Internship A	1･2･3前･後		1		1						※4
	Global Internship B	1･2･3前･後		2		1						※4
	Global Internship C	1･2･3前･後		2		1						※4
	Global Internship D	1･2･3前･後		5		1						※4
	Community Engagement A	1･2･3前･後		1		1						※4
	Community Engagement B	1･2･3前･後		2		1						※4
	Community Engagement C	1･2･3前･後		2		1						※4
	Community Engagement D	1･2･3前･後		5		1						※4
	Global Service Learning A	1･2･3前･後		1			1					※4
	Global Service Learning B	1･2･3前･後		2			1					※4
	Global Service Learning C	1･2･3前･後		2			1					※4
	Global Service Learning D	1･2･3前･後		5			1					※4
	小計(66科目)	－	0	248	0	7	3	1	0	0	14	
合計(82科目)		－	40	272	0	**8**	**3**	6	0	0	15	

卒業要件及び履修方法

専門教育科目
専門必修科目　32単位
専門選択必修科目　20単位
専門選択科目　72単位
「Humanities科目群」「Social Sciences科目群」「Business & Economics　科目群」の各群から8単位以上を修得しなければならない。(履修科目の登録の上限:各セメスター間24単位)

備考※1:「Foundation for Global Engagement A～C」のうち2科目を修得しなければならない。
備考※2:「Capstone A～C」のうち1科目を修得しなければならない。
備考※3:留学準備教育のための授業・留学中の学修等について単位認定を行う科目。
備考※4:国内外のインターンシップ、ボランティア、サービスラーニング活動における学修(事前・事後指導含む)等について単位認定を行う科目。

（注）・　報告年度の５月１日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
・　認可申請書又は設置届出書の様式第２号（その２の１）に準じて作成してください。
・　各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
・　「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て（兼任、兼担教員が担当する科目を含む。）を黒字で記入してください。その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字**としてください。
・　履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「（未開講）」として記入してください。
・　１ページ目には認可時又は届出時と報告年度２つの表を記入してください。
・　不要な年度（令和４年度開設であれば令和３年度以前）の表は適宜削除してください。
（２つの表が１ページに表示されるようにしてください。）
・　専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
・　指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧シートを分けてご作成ください。

（１）ー②授業科目表に関する変更内容

【令和５年度】

・専任教員（准教授）1名が就任辞退したことにより、専門選択必修科目「Digital LiteracyⅠ」「Digital LiteracyⅡ」の専任教員等の配置をそれぞれ「准教授1」から「准教授0」に変更。 ・上記の専任教員（准教授）就任辞退に伴い、専任教員（教授）1名を補充し、同「Digital LiteracyⅠ」「Digital LiteracyⅡ」の専任教員等の配置をそれぞれ「教授0」から「教授1」に変更。

（注）・　２（１）ー① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
・　変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
・　不要な年度（令和４年度開設であれば令和３年度以前）の表は適宜削除してください。
・　指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ１つの枠内に記入してください。

（２） 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計（Ａ）	必修	選択	自由	計	
10 科目	72 科目	0 科目	82 科目	10 科目 [0]	72 科目 [0]	0 科目 [0]	82 科目 [0]	

（注）・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、［ ］内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：１科目減の場合：△１）

・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム（新カリキュラム）の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム（旧カリキュラム）の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

（３） 未開講科目

番号	授業科目名	単 位 数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

（注）・　配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
・　履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
・　教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
・　専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
・　該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

（４） 廃止科目

番号	授業科目名	単 位 数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

（注）・　設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
・　教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
・　専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
・　該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

（５） 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

（注）・　授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

（６）「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目（３）と廃止科目（４）の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計（Ａ）}} = \frac{0}{82} = \boxed{0}\ \%$$

（注）・　小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。
・　「未開講科目と廃止科目の計」が、「（３）未開講科目」と「（４）廃止科目」の合計数となるように留意してください。

３　施設・設備の整備状況，経費

区分		内容				備考
（1）校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	中宮キャンパス全体 共用は関西外国語大学短期大学部（必要面積16,000㎡）
	校舎敷地	0㎡	160,822.61㎡	0㎡	160,822.61㎡	
	運動場用地	0㎡	71,965.08㎡	0㎡	71,965.08㎡	
	小計	0㎡	232,787.69㎡	0㎡	232,787.69㎡	
	その他	0㎡	8,733.22㎡	0㎡	8,733.22㎡	
	合計	0㎡	474,308.60㎡	0㎡	474,308.60㎡	
（2）校舎		専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	中宮キャンパス全体 共用は関西外国語大学短期大学部（必要面積7,650㎡）
		21,237.34㎡ （21,237.34㎡）	56,012.86㎡ （56,012.86㎡）	5,913.55㎡ （5,913.55㎡）	83,163.75㎡ （83,163.75㎡）	

（3）教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	備考
	151室	93室	10室	7室 （補助職員　人）	5室 （補助職員　人）	中宮キャンパス全体

（4）専任教員研究室	新設学部等の名称	室数	備考
	国際共生学部　国際共生学科	17室	中宮キャンパス全体 238室 うち空室27室

（5）図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	備考
	国際共生学部 国際共生学科	105,500〔32,500〕 (103,837〔32,597〕) ~~(102,277〔30,840〕)~~	500〔330〕 (463〔313〕)	30,000〔29,600〕 (28,993〔28,932〕) ~~(27,763〔27,702〕)~~	6,500 (6,687) ~~(6,671)~~	400 (283) ~~(358)~~	0 (0)	大学全体 図書586,929[252,392] 雑誌2,013[762] ~~図書576,824[246,449]~~ ~~雑誌2,841[818]~~ 図書、電子ジャーナルは教育研究充実のため増加。 雑誌、視聴覚資料は情報利用環境の変化に対応し減少。(5)
	計	105,500〔32,500〕 (103,837〔32,597〕) ~~(102,277〔30,840〕)~~	500〔330〕 (463〔313〕)	30,000〔29,600〕 (28,993〔28,932〕) ~~(27,763〔27,702〕)~~	6,500 (6,687) ~~(6,671)~~	400 (283) ~~(358)~~	0 (0)	

（6）図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数	備考
	18,120㎡	2,066	815,166 ~~838,000~~	大学全体 収容可能冊数は文科省の算出方法で計算し直したため減少。(5)

（7）体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要	
	14,453.63㎡	テニスコート	アーチェリー練習場

（8）経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設年度	完成年度	区分	開設前年度	開設年度	完成年度
経費の見積り	教員１人当り研究費等	400千円	400千円	図書購入費	1,000千円	500千円	500千円
	共同研究費等	2,500千円	2,500千円	設備購入費	-千円	-千円	-千円

学生１人当り納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
	1,400千円	1,150千円	1,150千円	1,150千円	千円	千円

学生納付金以外の維持方法の概要	手数料収入、私立大学等経常経費補助金　等

（注）・　設置時の計画を、申請書の様式第２号（その１の１）に準じて作成してください。（複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「（１）校地等」及び「（２）校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はＡＣ対象学部等の数値を記入してください。）

・　運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨（所要時間・距離等）を「備考」に記入してください。

・　「(５)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和５年５月１日現在の数値を記入してください。

・　昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「（５）」を「備考」に赤字で記入してください。

なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。

・　校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

・　国立大学については「（８）経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

４　既設大学等の状況

大学の名称	関西外国語大学	平均入学定員超過率0.7倍以下の学科数	0	平均入学定員超過率1.15倍以上の学科数	0	収容定員充足率0.7倍以下の学科数	0	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	0

既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	平均入学定員超過率（控除後）	収容定員充足率	収容定員充足率（控除後）	定員変更年度（AC期間の学科のみ）	開設年度	所在地	備考
	年	人	年次 人	人		倍	倍	倍	倍	年度	年度		
外国語学部													
英米語学科	4	865	3年次 300	4975	学士（英語学）	1.05	1.05	1.05	1.05	－	昭和41	大阪府枚方市中宮東之町16番1号	令和5年度入学定員減（△305）
スペイン語学科	4	250	3年次 25	1050	学士（スペイン語学）	0.95	0.95	0.96	0.96	－	昭和41	同上	
英語・デジタルコミュニケーション学科	4	200	0	200	学士（英語学）	1.05	－	1.05	－	－	令和5	同上	
英語国際学部													
英語国際学科	4	700	3年次 100	3000	学士（英語国際）	1.02	1.02	1.03	1.03	－	平成26	大阪府枚方市御殿山南町6番1号	
英語キャリア学部													
英語キャリア学科	4	120	0	480	学士（英語キャリア）	0.99	0.99	1.00	1.00	－	平成25	大阪府枚方市中宮東之町16番1号	
英語キャリア学科小学校教員コース	4	50	0	140	学士（教育）	0.85	0.85	0.81	0.81	－	平成25	同上	令和5年度入学定員増（20）
国際共生学部													
国際共生学科	4	70	３年次 30	100	学士（国際共生）	1.05	－	1.05	－	－	令和5	大阪府枚方市中宮東之町16番1号	
大学全体	4	2255	３年次 455	9945	－	－	－	－	－	－	－	－	

大学の名称	関西外国語大学　短期大学部	平均入学定員超過率0.7倍以下の学科数	0	平均入学定員超過率1.15倍以上の学科数	0	収容定員充足率0.7倍以下の学科数	0	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	0

既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	平均入学定員超過率（控除後）	収容定員充足率	収容定員充足率（控除後）	定員変更年度（AC期間の学科のみ）	開設年度	所在地	備考
	年	人	年次 人	人		倍		倍	倍	年度	年度		
英米語学科	2	800	－	1600	短期大学士（英語学）	0.71	0.71	0.71	0.71	－	昭和28	大阪府枚方市中宮東之町16番1号	
短期大学全体	2	800	－	1600	－	－	－	－	－	－	－	－	

（注）・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校（以下「大学等」という。）について、既に設置している学部等（短期大学、高等専門学校にあっては学科等）の報告年度の５月１日現在の状況を記入してください。（大学院、専攻科及び別科を除く）。
なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。
（様式のうち、記載する必要がない学校種は削除してください。）
・学部の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。
履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
・本年度ＡＣの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
・「平均入学定員超過率」には、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
・「平均入学定員超過率（控除後）」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第２項及び第４項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。
なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を越える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「－」としてください。
・「収容定員充足率」には、報告年度における５月１日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和６年度開設用）Ⅳ.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
・「収容定員充足率（控除後）」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第１条第２項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第２項及び第４項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を越える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「－」としてください。
・「平均入学定員超過率（控除後含む）」及び「収容定員充足率（控除後含む）」は、小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで記入してください。
また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、**必ず太字にしてください**。
・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

５　教員組織の状況

＜国際共生学部　国際共生学科＞

（１）ー① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	教授 （学科長）	BOHAKER, Linda A. ＜令和5年4月＞ M.of Law and Diplomacy/M.A.in East Asian Studies （米国）	Foundation for Global Engagement B Capstone C Global Management Global Internship A Global Internship B Global Internship C Global Internship D
専	教授	長谷川　通 ＜令和5年4月＞ 博士（経済学）	Introduction to Macroeconomics Global Economics Economic DevelopmentⅡ
専	教授	米村　明美 ＜令和5年4月＞ Doctor of Education （米国）	Capstone B International Organizations Sustainable Development A Sustainable Development B Community Engagement A Community Engagement B Community Engagement C Community Engagement D
専	教授	LEE, Hyunjung ＜令和5年4月＞ Ph.D.in Comparative Literature （米国）	Capstone A Survey in LiteratureⅠ Survey in LiteratureⅡ Topics in Literature Global Issues A
専	教授	IQBALL, Arif ＜令和5年4月＞ M.A.in Asian Studies[Japan]/M.of Business Administration （米国）	Foundation for Global Engagement A Topics in Japanese Business Global Leadership
専	教授	OH, Ingyu ＜令和5年4月＞ Ph.D. in Sociology （米国）	Survey in Sociology Comparative Cultures International Business
専	教授	KIM, Seung-Young ＜令和5年4月＞ Ph.D.in International Relations （米国）	Survey in International Politics Global Diplomacy and Asia History of International Politics
専			
専	准教授	SHULTZ, John A. ＜令和5年4月＞ Ph.D.in Japanese Studies （英国）	Foundation for Global Engagement C Religion and Philosophy Seminar in Philosophy Seminar in Religion
専	准教授	BAILEY, Scott C. M. ＜令和5年4月＞ Ph.D.in History （米国）	History of AsiaⅠ History of AsiaⅡ Topics in History

【令和５年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	教授 （学科長）	BOHAKER, Linda A. ＜令和5年4月＞ M.of Law and Diplomacy/M.A.in East Asian Studies （米国）	Foundation for Global Engagement B Capstone C Global Management Global Internship A Global Internship B Global Internship C Global Internship D
専	教授	長谷川　通 ＜令和5年4月＞ 博士（経済学）	Introduction to Macroeconomics Global Economics Economic DevelopmentⅡ
専	教授	米村　明美 ＜令和5年4月＞ Doctor of Education （米国）	Capstone B International Organizations Sustainable Development A Sustainable Development B Community Engagement A Community Engagement B Community Engagement C Community Engagement D
専	教授	LEE, Hyunjung ＜令和5年4月＞ Ph.D.in Comparative Literature （米国）	Capstone A Survey in LiteratureⅠ Survey in LiteratureⅡ Topics in Literature Global Issues A
専	教授	IQBALL, Arif ＜令和5年4月＞ M.A.in Asian Studies[Japan]/M.of Business Administration （米国）	Foundation for Global Engagement A Topics in Japanese Business Global Leadership
専	教授	OH, Ingyu ＜令和5年4月＞ Ph.D. in Sociology （米国）	Survey in Sociology Comparative Cultures International Business
専	教授	KIM, Seung-Young ＜令和5年4月＞ Ph.D.in International Relations （米国）	Survey in International Politics Global Diplomacy and Asia History of International Politics
専	**教授**	**THEPAUT Sabine, M.C.** **＜令和5年4月＞** **M.A.in English with a Concentration in ESL** **（米国）**	**Digital LiteracyⅠ** **Digital LiteracyⅡ**
専	准教授	SHULTZ, John A. ＜令和5年4月＞ Ph.D.in Japanese Studies （英国）	Foundation for Global Engagement C Religion and Philosophy Seminar in Philosophy Seminar in Religion
専	准教授	BAILEY, Scott C. M. ＜令和5年4月＞ Ph.D.in History （米国）	History of AsiaⅠ History of AsiaⅡ Topics in History

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	准教授	BALL, Daniel T. ＜令和5年4月＞ M.S.in Education （米国）	Digital Literacy Ⅰ Digital Literacy Ⅱ
専	准教授	LIND, Scott L. ＜令和5年4月＞ Ph.D.in Speech Communication （米国）	Intercultural Communication Global Service Learning Global Service Learning A Global Service Learning B Global Service Learning C Global Service Learning D
専	講師	倉沢　郁子 ＜令和5年4月＞ 修士（国際学）	Japanese Japanese Reading & Writing
専	講師	AUSTIN, Heather M. ＜令和5年4月＞ M.A.in Applied Linguistics （米国）	Interpersonal Communication Language & Society Global Communication Ⅱ Diversity & Equality in Contemporary Literature
専	講師	KUO, Alice T. ＜令和5年4月＞ M.A.for Teachers(ESOL) （米国）	Interpersonal Communication Global Communication Ⅰ Global Communication Ⅱ Diversity & Equality in Contemporary Literature
専	講師	SCARBOROUGH, Courtney E. ＜令和5年4月＞ M.A.in Applied Linguistics and TESL （米国）	Integrated Language Skills Interpersonal Communication Diversity & Equality in Contemporary Literature
専	講師	BRENNAN, David P. ＜令和5年4月＞ M.A.in TESOL （ｱｲﾙﾗﾝﾄﾞ）	Academic Writing Ⅰ Academic Writing Ⅱ
専	講師	MOMOLDAEVA, Tatiana ＜令和5年4月＞ M.A.in Foreign Philology （米国）	Academic Writing Ⅰ Academic Writing Ⅱ Diversity & Equality in Contemporary Literature
兼担	教授	ZURCHER, Stephen A. ＜令和5年4月＞ Doctor of Management （米国）	Global Marketing
兼担	教授	CHANG, Booseung ＜令和5年4月＞ Ph.D.in International Relations （米国）	Foreign Policy
兼担	准教授	豊田　裕之 ＜令和5年4月＞ Ph.D.in Sociology （米国）	Topics in Sociology
兼担	准教授	KIM-LEE, Seong A ＜令和5年4月＞ Ph.D.in Design （韓国）	Topics in Art Ⅰ Art Across Cultures
兼担	准教授	COGAN, Mark S. ＜令和5年4月＞ M.A.in European U Center for Peace Studies （英国）	Comparative Politics Ⅱ Global Issues B Global Issues C

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	准教授	LIND, Scott L. ＜令和5年4月＞ Ph.D.in Speech Communication （米国）	Intercultural Communication Global Service Learning Global Service Learning A Global Service Learning B Global Service Learning C Global Service Learning D
専	講師	倉沢　郁子 ＜令和5年4月＞ 修士（国際学）	Japanese Japanese Reading & Writing
専	講師	AUSTIN, Heather M. ＜令和5年4月＞ M.A.in Applied Linguistics （米国）	Interpersonal Communication Language & Society Global Communication Ⅱ Diversity & Equality in Contemporary Literature
専	講師	KUO, Alice T. ＜令和5年4月＞ M.A.for Teachers(ESOL) （米国）	Interpersonal Communication Global Communication Ⅰ Global Communication Ⅱ Diversity & Equality in Contemporary Literature
専	講師	SCARBOROUGH, Courtney E. ＜令和5年4月＞ M.A.in Applied Linguistics and TESL （米国）	Integrated Language Skills Interpersonal Communication Diversity & Equality in Contemporary Literature
専	講師	BRENNAN, David P. ＜令和5年4月＞ M.A.in TESOL （ｱｲﾙﾗﾝﾄﾞ）	Academic Writing Ⅰ Academic Writing Ⅱ
専	講師	MOMOLDAEVA, Tatiana ＜令和5年4月＞ M.A.in Foreign Philology （米国）	Academic Writing Ⅰ Academic Writing Ⅱ Diversity & Equality in Contemporary Literature
兼担	教授	ZURCHER, Stephen A. ＜令和5年4月＞ Doctor of Management （米国）	Global Marketing
兼担	教授	CHANG, Booseung ＜令和5年4月＞ Ph.D.in International Relations （米国）	Foreign Policy
兼担	准教授	豊田　裕之 ＜令和5年4月＞ Ph.D.in Sociology （米国）	Topics in Sociology
兼担	准教授	KIM-LEE, Seong A ＜令和5年4月＞ Ph.D.in Design （韓国）	Topics in Art Ⅰ Art Across Cultures
兼担	准教授	COGAN, Mark S. ＜令和5年4月＞ M.A.in European U Center for Peace Studies （英国）	Comparative Politics Ⅱ Global Issues B Global Issues C

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼担	准教授	DAUT, Nur Rafeeda Binti ＜令和5年4月＞ Ph.D. in International Relations （英国）	International Politics Globalization and Identity
兼担	准教授	DRUET, Lucile ＜令和5年4月＞ Ph.D. in Visual Arts （仏国）	Topics in ArtⅡ
兼担	准教授	TRACY, Mark S. ＜令和5年4月＞ Juris Doctor/M.of Business Administration （米国）	Introduction to Microeconomics Principles of Business Topics in Management International Negotiation
兼担	准教授	FEDOROWICZ, Steven C. ＜令和5年4月＞ Ph.D. in Anthropology （米国）	Introduction to Cultural Anthropology Cultural Anthrpology
兼担	准教授	HOLLSTEIN, Mark C. ＜令和5年4月＞ Ph.D. in Political Science （米国）	Media and Culture A Media and Culture B
兼担	准教授	PORTEUX, Jonson N. ＜令和5年4月＞ Ph.D. in Political Science （米国）	Comparative PoliticsⅠ
兼担	准教授	YOO, Kate Inyoung ＜令和5年4月＞ 博士（アジア太平洋学）	Introduction to Marketing Global Issues D Global Issues E
兼担	講師	篠原 恵美 ＜令和5年4月＞ 修士(国際関係学) /M.A. in Applied Linguistics （米国）	Integrated Language Skills
兼担	講師	GHOSH DASTIDAR, Debasrita ＜令和5年4月＞ 博士（文学）	Jananese Literature
兼担	講師	GONZALEZ BASURTO, Grace L. ＜令和5年4月＞ Ph.D. in International Political Economy	Economic DevelopmentⅠ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼担	准教授	DAUT, Nur Rafeeda Binti ＜令和5年4月＞ Ph.D. in International Relations （英国）	International Politics Globalization and Identity
兼担	准教授	DRUET, Lucile ＜令和5年4月＞ Ph.D. in Visual Arts （仏国）	Topics in ArtⅡ
兼担	准教授	TRACY, Mark S. ＜令和5年4月＞ Juris Doctor/M.of Business Administration （米国）	Introduction to Microeconomics Principles of Business Topics in Management International Negotiation
兼担	准教授	FEDOROWICZ, Steven C. ＜令和5年4月＞ Ph.D. in Anthropology （米国）	Introduction to Cultural Anthropology Cultural Anthrpology
兼担	准教授	HOLLSTEIN, Mark C. ＜令和5年4月＞ Ph.D. in Political Science （米国）	Media and Culture A Media and Culture B
兼担	准教授	PORTEUX, Jonson N. ＜令和5年4月＞ Ph.D. in Political Science （米国）	Comparative PoliticsⅠ
兼担	准教授	YOO, Kate Inyoung ＜令和5年4月＞ 博士（アジア太平洋学）	Introduction to Marketing Global Issues D Global Issues E
兼担	講師	篠原 恵美 ＜令和5年4月＞ 修士(国際関係学) /M.A. in Applied Linguistics （米国）	Integrated Language Skills
兼担	講師	GHOSH DASTIDAR, Debasrita ＜令和5年4月＞ 博士（文学）	Jananese Literature
兼担	准教授	GONZALEZ BASURTO, Grace L. ＜令和5年4月＞ Ph.D. in International Political Economy	Economic DevelopmentⅠ

（注）・　報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
・　認可申請書又は設置届出書の様式第３号（その２の１）に準じて作成してください。
・　各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教員名簿」を確認してください。
・「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の教員全て（兼任、兼担教員を含む。）を黒字で記入してください。
その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。**
・　年齢は、**それぞれの年度の５月１日時点の満年齢**を記入してください。
・　専任（専門職大学等は専、実専、実（研）、実み）、兼担、兼任の順に記入してください。
・　不要な年度（令和４年度開設であれば令和３年度以前）の表は適宜削除してください。
・　指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「担当授業科目名」の上段に変更後のカリキュラム（新カリキュラム）の授業科目名を記入するとともに、下段に変更前のカリキュラム（旧カリキュラム）の授業科目名を記入してください。

（１）ー②担当教員表に関する変更内容

【令和５年度】

・BALL, Daniel T.准教授の就任辞退に伴い、令和5年4月より後任としてTHEPAUT Sabine, M.C.教授が就任。 前任者の担当科目「Digital LiteracyⅠ」「Digital LiteracyⅡ」を担当。 ・GONZALEZ BASURTO, Grace L.兼担講師について、令和5年4月昇任に伴い、職位を准教授へ変更。

（注）・　変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。

・　**認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合**は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（ＡＣ教員審査）を受けてください。**ＡＣ教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**

・　ＡＣ教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。

・　不要な年度（令和４年度開設であれば令和３年度以前）の表は適宜削除してください。

（２） 専任教員数等

（注）・　計画の区分が「学部等連係課程実施基本組織（学科連係課程実施学科）の設置」の場合、大学設置基準第四十二条の三の二（短期大学設置基準第三条の二）に基づく「連係協力学部等（連係協力学科）」の専任教員数について、「（２）-① 設置基準上の必要専任教員数」及び「（２）-② 専任教員等数【大学】」を連係協力学部等（連係協力学科）ごとに別ファイルで作成してください。

（２）ー①　設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
12 名	6 名

（注）・　大学設置基準別表第一、短期大学設置基準別表第一イ、高等専門学校設置基準第六条第二項及び第三項又は第四項により算出される専任教員数を記入してください。

・　高等専門学校の場合、「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数」欄は「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授・准教授数として、高等専門学校設置基準第八条により算出される必要教授・准教授数を記入してください。

（２）ー②　専任教員等数【大学・高専】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教　授	准教授	講　師	助　教	計（A）	助手（A’）	教　授	准教授	講　師	助　教	計（B）	助手（B’）
7	4	6	0	17	0	8	3	6	0	17	0
（７）	（４）	（６）	（０）	（17）	（０）						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教　授	准教授	講　師	助　教	計（C）	助手（C’）	教　授	准教授	講　師	助　教	計（D）	助手（D’）
8	3	6	0	17	0	8	3	6	0	17	0
［　１　］	［△1］	［　０　］	［　０　］	［　０　］	［　０　］	［　１　］	［△1］	［　０　］	［　０　］	［　０　］	［　０　］

（注）・「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、（　）内に開設時の状況を記入してください。
・「現在（報告時）の状況」には、報告年度の５月１日の教員数（実人数）を記入してください。
・**「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入**するとともに、［　］内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：１名減の場合：△１）
・「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、［　］内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：１名減の場合：△１）

（２）ー③　年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告時（上記（B））の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記（C））の教員うち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	0 名	0 名

（注）・「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の５月１日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
・なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

（２）ー④　設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況（C）}}{\text{設置時の計画（A）}} = \frac{17}{17} = \boxed{100}\ \%$$

（注）・　小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。

（２）ー⑤　現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況（B）}} = \frac{0}{17} = \boxed{0}\ \%$$

（注）・　小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。

（２）ー⑥　設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況（C’）}}{\text{設置時の計画（A’）}} = \frac{0}{0} = \boxed{-}\ \%$$

（注）・　小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。

（３） 専任教員辞任等の理由

（３）ー①　専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番　号	職　位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
1	准教授	BALL, Daniel T.	R5.3	必修	Digital Literacy Ⅰ	①	R5.3自己都合のため就任辞退（5）
				必修	Digital Literacy Ⅱ	①	

合計（D）				後任補充状況の集計（E）							
就任を辞退した教員数	担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）			②の合計数（b）			③の合計数（c）	
1　人	必修	2	科目	必修	2	科目	必修	0	科目	必修	0 科目
	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0 科目
	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0 科目
	計	2	科目	計	2	科目	計	0	科目	計	0 科目

（注）・　認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
・　「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。
就任した後に辞任した教員は、以下「（３）ー②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
・　昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、
「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（　）書きで報告年度を記入してください。
・　また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、
「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・専任教員が担当する（している）場合は「①」
・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

（３）ー②　専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番　号	職　位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
							該当なし

合計（F）				後任補充状況の集計（G）							
辞任した教員数	担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）			②の合計数（b）			③の合計数（c）	
0　人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0 科目
	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0 科目
	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0 科目
	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0 科目

（注）・　一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について、記入してください。
・　昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」
に辞任理由等及び（　）書きで報告年度を記入してください。
・　また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、
「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・専任教員が担当する（している）場合は「①」
・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

（３）ー③　上記（３）ー①　・　（３）ー②　の合計

合計（D）＋（F）				後任補充状況の集計（E）＋（G）							
辞任等した教員数	担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）			②の合計数（b）			③の合計数（c）	
1　人	必修	2	科目	必修	2	科目	必修	0	科目	必修	0 科目
	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0 科目
	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0 科目
	計	2	科目	計	2	科目	計	0	科目	計	0 科目

（３）ー④　設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)-③合計(D)+(F)}{(2)-②設置時の計画(A)} = \frac{1}{17} = 5.88\%$$

（注）・　小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。

（３）ー⑤　令和４年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

1 人

（注）・（３）ー①、（３）ー②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。
・　令和５年度開設の学科等の場合、（D）＋（F）と同数を記載してください。

（３）ー⑥　定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番　号	職　位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
						該当なし

合計			後任補充状況の集計		
辞任した教員数	担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）
0　人	必修	0　科目	必修　0　科目	必修　0　科目	必修　0　科目
	選択	0　科目	選択　0　科目	選択　0　科目	選択　0　科目
	自由	0　科目	自由　0　科目	自由　0　科目	自由　0　科目
	計	0　科目	計　0　科目	計　0　科目	計　0　科目

（注）・　**定年により退職した全ての専任教員**について、記入してください。
・　昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（　）書きで報告年度を記入してください。
・　また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・専任教員が担当する（している）場合は「①」
・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

（４）専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

【大学の所見】
令和5年4月より、就任辞退した専任教員（准教授）1名に代えて、シラバスの内容およびカリキュラムの構成、主旨目的に沿った指導ができるよう既設の外国語学部に採用予定の専任教員（教授）1名を補充することとした。当該教員は前任者と十分な引継ぎを行っており、学生の履修等には影響はなかった。
【学生への周知方法】
就任辞退・変更については、履修登録ガイダンスまでに時間割表やコースシラバス等の変更も行っており、ガイダンス時に周知徹底を行ったため、学生の履修に関する不都合はなく、混乱も生じなかった。

（注）・　上記（３）の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

６　附帯事項等に対する履行状況等

区　　分	附　帯　事　項　等		履　行　状　況		今後の の実施計画
届　出　時 （令和4年）	国際共生学部国際共生学科という名称からは「社会学・社会福祉学関係」の教育課程や学位の分野も想起されることを踏まえ、本学部学科の教育課程や学位の分野が「文学関係」及び「経済学関係」である点について誤解が生じないよう、社会や学生等に対してその特色や教育内容を十分に周知すること。	【届出】 助言事項	・本学ホームページ、リーフレット、大学案内、入試ガイド等の各種広報媒体やオープンキャンパス、高校訪問等の機会を活用し、本学部学科の特色や教育内容に関し誤解が生じないよう社会や学生等に対して周知徹底を行った。 （参考資料添付）	履行済	引き続き、本学部学科の教育課程や学位の分野が「文学関係」及び「経済学関係」である点について誤解が生じないよう、社会や学生等に対してその特色や教育内容を十分に周知する。
設置計画履行状況 調　査　結　果 （令和5年度）	該当なし		該当なし		該当なし

（注）・　「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）　と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

・　認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。

【令和４年度報告書から記載内容に変更がある場合】

令和４年度報告書の記載内容を転記し文末に「（４）」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（５）」と記載してください。

【令和４年度報告書から記載内容に変更がない場合】

令和４年度報告書の記載内容を転記し文末に「（４）（５）」と記載してください。

【令和５年度から新たに調査対象となった学科等又は令和４年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】

「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（５）」と記載してください。

・　「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入**してください。その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。

・　「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。

・　該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。

・　「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

７　その他全般的事項

＜国際共生学部　国際共生学科＞

（１） 設置計画変更事項等

設　置　時　の　計　画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	該当なし

（注）・　１～６の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）
及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

（２） 教員の資質の維持向上の方策（ＦＤ・ＳＤ活動含む）

①　実施体制

ａ　委員会の設置状況

大学全体の教育活動の質的向上・発展を図ることを目的として、「ファカルティ・デベロップメント(FD)委員会」を設置している。構成員は、委員長、教務部長、学長が委嘱する委員(外国人教員含む)、事務局長等の関係職員など、全学総勢21人で活動を展開している。また、SD活動についても、「スタッフ・ディベロップメント（SD）委員会」を設置し、教職員に求められる知識・技能の育成および向上に取り組んでいる。

ｂ　委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

年間4回程度開催している。委員は出席を義務付けられており、出張や学内会議等の公務による理由以外は、毎回ほぼ全員が出席している。

ｃ　委員会の審議事項等

[FD]

・ 教育内容および方法の改善のための方策に関する事項
・ 教育内容および方法にかかる研究会、研修会、シンポジウム等の企画運営に関する事項
・ 学生による授業評価の実施、分析等に関する事項
・ 教員からの教育内容および方法の相談に関する事項
・ 教育内容および方法にかかる指導が必要な教員に関する事項
・ ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動報告書等の作成に関する事項
・ 学長が諮問する事項

[SD]

・ 実施方針に掲げる研修等に関する事項
・ 学生の学習支援のための基本方針と実施体制に関する事項
・ 部門単位での業務改善目標の設定と結果の分析に関する事項
・ 審議および決定した内容について学内で告知徹底するための具体的方策に関する事項
・ その他、委員会が必要と認めた事項

②　実施状況

ａ　実施内容

[FD]

・ FD授業公開の実施
・ FD授業評価の実施・分析
・ FD授業評価集計結果・分析に関する教員の所見回収、公表
・ FD講演会の開催
・ FD授業実践研究フォーラムの開催
・ 『FD活動年報』の刊行

[SD]
・ テーマ別研修
・ オンデマンド研修

b　実施方法
[FD]
・　FD授業公開の実施(年間2回)
　春・秋学期に各2ヵ月間の授業公開期間を設け、全学部全授業を対象とした教員の相互授業参観を行っている。授業者は、参観者からの建設的なコメント(フィードバック)を自分の授業に反映させる。同時に、参観者は、授業者の教授法を自らの授業の参考にしている。
・　FD授業評価の実施（年間2回）・分析（年間1回）
　春・秋学期ともに、全開講科目の履修者を対象としてFD授業評価を実施している。FD授業評価結果は、各学期終了後に担当教員本人へフィードバックする。
・　FD授業評価・分析に関する教員の所見回収、公表（年1回）
　各教員は上記の授業評価結果を踏まえ、年度末に自己分析を行う。次年度からの授業運営に生かすことで、授業の質の向上を図っている。FD授業評価結果および自己分析結果は、オンラインシステム上で教員および学生に公開する。
・　FD講演会の開催(年間1回)
　学外の専門家や実務家を招き、外部から見た本学に求められる教育研究活動等、FDの形骸化を防ぎ、推進に寄与するテーマを設定、講演・質疑応答を通じて授業改善を図る。
・　FD授業実践研究フォーラムの開催(年間1回)
　全学的に発表者を公募し、応募教員一人当たり30分の持ち時間で教育実践を中心とした高等教育に関するテーマについて学会形式で発表を行うもので、教員同士の知見・経験を共有し、教育力の向上を目指す。
[SD]
・ テーマ別研修（年間3回）
　SD実施に関する方針に掲げる大学運営、教育研究活動、大学業務等に関する特定のテーマを取り上げ、学内または学外講師によるテーマ別研修を実施し、職員に求められる知識・技能の育成および向上を図る。
・ オンデマンド研修
　大学マネジメント機能に関する理解を深めるため、地理的・時間的制約を克服可能なオンデマンド学習ツール「e-JINZAI for university」を利用し、教職員の自己啓発を促す研修の一環として、実施する。
[FD・SD委員会所管外の活動]
・　FD・SDの位置付けとした研修等
　新任教員ガイダンス（教務委員会主催、年1回）、人権問題学習会（人権教育思想研究委員会主催、年1回）、新任教職員人権問題研修会（人権教育思想研究委員会主催、年1回）などを実施している。

c　開催状況（教員の参加状況含む）
[FD]
・　FD授業公開の実施
　令和4年度は春学期(5月16日～6月30日)と秋学期(11月10日～12月24日)にそれぞれ約2ヵ月間実施し、春学期は75人、秋学期は70人の授業参観の申込があった。
・　FD授業評価の実施・分析
　令和4年度は春学期(7月11日～7月21日）と秋学期(12月19日～12月24日）にそれぞれ実施し、次学期の授業開始までに担当教員本人へのフィードバックを行った。また、授業評価集計および分析結果の公表は令和5年8月下旬を予定。
・　FD授業評価集計結果・分析に関する教員の所見回収、公表
　令和4年度は、3月1日～3月31日に所見の入力を実施。441人（全教員の約80%)からの回答(回収率)を得た。未入力教員については、4月以降、入力を依頼する予定。公表は令和5年8月下旬を予定。
・　FD講演会の開催
　第11回目となるFD講演会を9月9日(水)に開催し、「高等教育機関におけるアドバイジングの役割 ～ 学修者本位の教育の実現に向けて～」のテーマで、101人の参加があった。
・　FD授業実践研究フォーラムの開催
　第12回目となるフォーラムを10月27日(木)に開催。発表者9人(うち外国人1人)から授業実践に関する取組みが報告され、108人の参加があった。
[SD]
・　テーマ別研修
　2022年度は6月29日、12月7日、1月25日の計3回実施。合計310人の参加があった。
・ オンデマンド研修
　2022年度は①ハラスメント研修、②「大学の歴史と政策・制度」、③「大学の組織と運営」の3つの講座を必須で受講することを案内し、それぞれの講座受講後にレポートの提出を求めた。

[FD・SD委員会所管外]

・　FD・SDの位置付けとした研修等

＊　新任教員ガイダンス　令和5年3月31日(金)実施、62人出席。

＊　人権問題学習会　令和4年11月25日(金)実施、42人出席。

＊　新任教職員人権問題研修会　令和4年5月17日(火)・18日(水)実施、29人出席。

d　実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

年間を通じた組織的・全学的FD活動によって、外国語教育を中心に、幅広い分野で実践的な授業改善に取り組んでいる。その結果は、年2回実施している学生による授業評価において、授業に対する総合評価が令和3年度春学期79.3点・秋学期81.3点、令和4年度春学期81.8点・秋学期82.2点と高い比率を維持するなど成果を上げている。

今後もこうした取組を継続的に行い、教員の資質維持・向上はもちろん、さらなる授業科目間のコーディネートや授業間での情報共有・連携強化に取り組んでいく。

③　学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a　実施の有無及び実施時期

年に2回、学期ごとに、全開講科目の履修者を対象とし、実施している。令和4年度は、春学期（7月11日～7月21日）、秋学期（12月19日～12月24日）に実施。

b　教員や学生への公開状況、方法等

学生による授業評価は、各学期終了後に集計結果を担当教員本人へフィードバックしている。また、授業評価の集計結果は、教職員および学生のみ閲覧可能なオンラインシステムで公開している。

（注）・「①ａ　委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

（３） 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

（４） 自己点検・評価等に関する事項

①　設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本学部の「国際通用性の高い専門教育と全授業科目オールイングリッシュ履修による学修や、主に欧米の海外協定先大学からの外国人留学生と肩を並べた共同学修を通じて、高度な英語実践力、異文化理解力、主体性を基盤とする地球市民としての資質や能力を養成することにより、予測困難な多文化共生時代において新たな価値を創造する人材を育成する」という人材養成目的のもと、ディプロマ・ポリシー、養成する人材像である「知的能力」と「実践力」を備え、多国籍な人々との協働による新たな価値を創造する力を備えた幅広い職業人養成を達成すべく、専門教育と教養教育を一体的に捉えた新たな総合的教養教育・実践教育を展開する教育課程を編成し、計画どおり令和5年4月から教育を開始した。

入学者選抜については、アドミッション・ポリシーに掲げる能力を確認するため、一般入試、大学入学共通テスト利用入試、公募制推薦入試およびグローバルチャレンジ入試の4つの方式で入学者選抜を計画どおり実施し、定員どおりの入学者を得ている。受験者数等を勘案すると、学部の趣旨および目的が広く社会に浸透・理解されたと評価できる。

また、各種ガイダンスやクラスアドバイザー懇談会の開催に加え、入学直後から、多くの学部生の参加の下、3年次に行う「グローバルチャレンジ留学」のオリエンテーションを実施する等エクスペリエンシャルラーニング（体験型学習）を基軸とした本学部の教育効果の向上に努めた。

②　自己点検・評価報告書

ａ　公表（予定）時期

・令和５年８月末日　公表予定

ｂ　公表方法

・大学ホームページ上に公開予定（令和５年８月末日を予定）

③　認証評価を受ける計画

・令和８年に評価機関（公益財団法人大学基準協会）の評価を受けるべく、学内で検討中。
なお、平成31年度に公益財団法人大学基準協会による認証評価を受審し、「適合」認定を受けた。

（注）・　設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。
また、「①　設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
なお、「②　自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

（５） 情報公表に関する事項

○　設置計画履行状況報告書（令和５年度）

ａ　公表予定の有無　〔　(有)　・　無　〕

≪ａで「有」の場合≫

ｂ　公表（予定）時期　〔　調査結果公表後１ヶ月以内　・　(公表後２～３ヶ月以内)　・　公表後３ヶ月以降　〕

ｃ　公表方法　〔　(ウェブサイトへの掲載)　・　その他（　　）　〕

≪ａで公表「無」の場合≫

ｄ　公表しない理由　〔　　〕

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、
設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイトに公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

資料一覧

参考資料　　本学ホームページ、リーフレット等（関連部分抜粋）

毎日、オールイングリッシュ。
世界レベルで外国人留学生と学ぶ、4年間。

あなたが外国語や国際社会に興味を持ったからだけはなくてしょうか。違う国の人と話してみたい。海外の文化に触れてみたい。将来は海外で働きたい。慣れ親しんだ環境から外に出てて挑戦したい。国際共生学部は、それぞれの「ちょっぴり」の先にあるさらなる可能性を、海外の学生たちとともに学び、経験しながら探求する学部です。オールイングリッシュの環境で、留学生とプロジェクトを立ちたって、実践を通して反復から学びに向かい合い続けます。そうすれば、国際社会における自身の現在を見えてくるでしょう。一人では成し得なかったことも、チームで、コミュニティで力を合わせれば、想像もしなかった新しい価値を生み出すことができるかもしれません。50年以上にわたる国際教育の実績と世界中に広がる学びの場を最大限活用し、これからの国際社会で求められる人材を養成すべく、2023年4月、関西外国語大学は「国際共生学部」を開設。

国際共生学部 国際共生学科 2023.04 開設

College of Global Engagement.

国際共生学部は「国際共生学科」「国際公共人間学科」の2学科で構成されます。

OVERVIEW

- Overview
- Experiential
- Faculty

世界中の仲間とグローバル社会の課題解決に取り組む。

グローバルな広義での直接や生活と情報化など、大きな変化を続ける現代社会。
現実的にも社会の中で、異なる文化背景を持つ人々との協働が、より一層重要になっています。
そこで必要になってくるのは、高度な異文化理解力はもちろん、多様な価値観を理解する論理や、
問に直面に向かって協働し、実現できるコミュニケーション力。
これからの国際社会を見据え、正解がつくりはない課題解決に、挑戦できる人材を育成します。

REVIEW

- Overview
- Experiential
- Faculty

オールイングリッシュである理由。

オールイングリッシュで授業を行うのには、理由があります。それは、ぼくたちの授業を留学生と学ぶからです。国際共生学部では、留学生たちとグローバルプロジェクトを通じ学ぶ人たち協業を行います。さまざまな背景をもつ人たちとチームで国際解決に取り組むためには、「英語で」相手に「伝わる」ことが、何よりも重にとって情報に、最適等を提案しながら、注意をとりつけるようプロセスが必ず求められます。英語をツールとして、実践的な学びと情報を重ねるプロセスこそが、国際社会での協働を可能にするとこでしょう。

REVIEW

- Overview
- Experiential
- Faculty

Experiential Learning 実践的な学びと体験。

国際共生学部では、4年間を通して学生の自発的な行動や学び を留学 取り組みを積極的に展開します。国内外でのインターンシップやボランティア、地域貢献活動、ワークショップへの参加を勧め、学生自らが企画したプロジェクトを立ち上げたり、セミナーを開催したりするなど、主体的に知識を深めることを推奨しています。本学では新に学生自身で運営する「Intercultural Engagement Programs」を開発しており、留学生との協働プロジェクトやイベントを継多く実施しています。このように、実践的な学びの機会は、授業を通して提供されるだけではなく、学生自らがリーダーを切り、計画を立て、実践するというプロセスも可能です。これらの経験を、とポートフォリオにまとめ、自らの将来性を明へ協力しながら、将来のキャリアを見据えて、海外に向けて、計画的に取り組んでいきます。

REVIEW

- Overview
- Experiential
- Faculty

「Global Engagement」をめざすということ。

国際共生学部がめざす「Global Engagement」。グローバル Global とは、単に世界を意味するのではなく、自分をとりまくすべての環境がグローバルであるという意味が込められています。エンゲージメント Engagement とは、グローバルな社会の一員として、世界とつながり、協働的に行動し、課題解決に自ら関わっていくことを意味しています。その力法や多様は人材をれやすいです。グローバル社会での自らの立ち位置を見つり、自らが考える方向や指針で行動していくことが、ています。

REVIEW

- Overview
- Experiential
- Faculty

Focus Point

English for Global Citizens
グローバル市民に必要な高度な英語力とコミュニケーション力を修得。

多様な文化背景や国籍背景を持つ人たちと協働するための高度な実践力やコミュニケーション力、マインドを養成します。また、デジタルな世界でグローバル社会で必要なデジタルスキルの基礎や情報技術の活用についてもを学び、グローバル市民としての実践力を磨きます。

Academic English
海外留学をふまえ学び、専門分野を学ぶうえで必要なアカデミックな英語力や高度力を修得します。

Digital Literacy
ソーシャルメディア活用、ICTやメディア、デジタルセーフティ、セキュリティなどに、どのようなキャリアにおいても必要となるデジタルリテラシーを身に修得します。

Global Skills
Team-based learning, Project-based learning などでのアクティブラーニング手法を用いた人たち協働で、チームワークやリーダーシップ、課題解決力などのスキルを修得します。

REVIEW

- Overview
- Experiential
- Faculty

Global Studies
海外留学生との共学。3つの学問分野をともに学ぶ。

人文科学(Humanities)、社会科学(Social Sciences)、ビジネス・経済学(Business & Economics)の3つの分野から成るこの新しい、各専門と異成でグローバルな社会活躍にアプローチします。留学生とともに学びプロジェクトに取り組みながらさまざまな協調に触れ、グローバル市民としての資質やマインドを養います。

REVIEW

- Overview
- Experiential
- Faculty

Experiential Learning
体験を通して学ぶ4年間。"Experiential Learning"

本学部の特徴のひとつがExperiential Learning。3年で実習行なう学びです。国内外でのインターンシップ、海外貢献型の留学やボランティアなどに、実践をでの体験学習を通して実践力を磨きます。これらの活動内容や学びをポートフォリオで振り返り、卒業後のキャリア設計につなげていきます。

主な活動例

国内外でのインターンシップ／サービス・ラーニング
地域貢献型学習／ボランティア／学生プロジェクト

REVIEW

- Overview
- Experiential
- Faculty

グローバルチャレンジ留学は、海外協定大学での授業や地域活動などを通して、グローバルな社会の課題解決に取り組む本学独自のプログラムです。現実的、社会的な「知行合」な留学経験学生で留学に小から自己を発見をもたち実感できます。
※留学等の留学費用は別途必要となります。

REVIEW

- Overview
- Experiential
- Faculty

充実の留学費用サポート

フルスカラシップ 免除または支給 留学先大学での学費免除分 → 授業料 / 住居費 / 食費

スカラシップ 免除または支給 留学先大学での学費免除分 → 授業料

フルスカラシップを目的として留学する場合

ニューヨーク州立大学オルバニー校（アメリカ州立大学の例）

授業料 (¥1,100,000) + 住居費 (¥1,300,000) + 食費 (¥1,100,000) = 約525万円 → 免除 or 支給

約525万円分の学費が免除されるようなOPEN学費

※ 上記費用は2022/23/Spring2023 Academic Year の情報です。為替等で変動する。上記費用は目安となります。
※留学期間や大学の状況等の変動により変動する可能性があります。「大学等留学ガイドブック」に、「Q&A」を掲載しています。

REVIEW

- Overview
- Experiential
- Faculty

ほかにも選択可能な2カ年以上の留学

本学科では、1年間のグローバルチャレンジ留学を推奨していますが、希望者は2カ年以上の留学に申込みが可能です。

大学・大学院留学留学（留学期間:1年間）
本学の学生と、アメリカの大学の学生が1年ごとの学生が半年で相手校で学ぶ国内の大学 約40校をキャンプ。

ダブル・ディグリー留学（留学期間:2年間）
日本半年で、本学と留学先大学の2つの学士が取得できるプログラム。

2カ国留学（留学期間:2年間）
北欧、ヨ北、社会先事の異なる2つの国で1年間ずつ留学し、社会問題の解決に取り組む。

※2カ月以上の留学に申込する場合、グローバルチャレンジ留学に参加できます。

REVIEW

- Overview
- Experiential
- Faculty

Engage with the world as a global thinker and leader

The B.A. in Global Engagement is for those students who want to make a positive difference in the world and engage with their peers in solving some of the global, most significant challenges. Intensive English courses, daily interactions with international students in and outside of the classroom, study abroad opportunities, experiential learning, and a capstone project will give students the knowledge, skills, and passion to become active global thinkers and leaders.

国際共生学部 国際共生学科講師
BOHAKER, Linda 教授

Professor Bohaker teaches courses in Canadian, U.S. and Asian Studies. She received her Ph.D. from Washington University. She is a multi-disciplinary scholar with a focus on Canadian and Japanese literature, including business management and Japanese history. In both Japanese and international students, she is a strong advocate of studying abroad, she loves preparing Japanese students for study abroad, knowing how much that experience will change their lives.

EXPERIENTIAL

Experiential Learning

実践型の学びと体験を。

関西外大の伝統とともに育む国際教育の実績と世界中に広がる学びの場を最大限活用し、
海外の学生たちと多様な文化や価値観を共有しながらともに学び、行動し、
「知識」と「実践」を兼ね備えた人材の育成をめざします。

English for Global Citizens

集中型プログラムで英語力と国際共生に不可欠な知識や基礎となるスキルを身に付ける。

English for Global Citizens(EGC)プログラムは、
コンテンツベースの学習を通じ高いカテゴリックな英語修得プログラムです。
グローバル市民に必要とされる実践的な異文化コミュニケーション力や知識を身に付けます。

科目例

Academic Writing
自らの考えを明確に伝えるための表現や読み書スキルの修得から、研究論文作成の基礎力まで、アカデミックな英語力を養います。

Language & Society
言語と文化が、ときどきに社会構造にもたらす影響をテーマとした議論を通じ、知的理解を深めながら、実践的なスキルを修得します。

Global Communication
ワーク・ナ・ディベート、プレゼンテーションなど実践的な手法を用いながら、高度なコミュニケーション力を身に付けます。

Integrated Language Skills
高度なリーディング能力とリーディング評価的な文部まで幅広い分野における英文資料を使いこなすような応用的な文章を読み議論するスキルを養成。2年次からの専門科目開講に向けた準備を行います。

Diversity & Equity in Contemporary Literature
多様性や平等性をテーマとした現実や今の問題などから、人種や民族、ジェンダー性自問作など多文化社会における課題についての議論を通じてコミュニケーションを養います。

Digital Literacy
デジタルファーメーションが加速するSociety5.0において必要となる知識や考え方を学び情報の活用能力を身に付けます。

Overview
Experiential
Faculty

Foundation for Global Engagement

自己と向き合い国際共生における自らの役割を発見する。

国際共生への入り口となる科目で、
歴史や現在などに焦点を当てながら自の探求を通して
グローバル社会における自らの役割を見出します。

授業内容

Managing Yourself
この科目では、卒業後キャリアのみならず長期的な視点で人生をとらえ「自分は一体何者なのか」「なぜ学ぶのか」「多文化社会において自分はどんな自己になりたいのか」などと人生を2年間にあたりその先づき手間をこと自問していします。

Turning Points in Japanese History
日本社会にみる変化をもたらした歴史的な出来事を取り上げ、その時代の経済、社会、政治、イデオロギーなどに、さまざまな観点で分析し、変化をもたらした要因を探ります。さらに、社会に変化をおこすことや変化を要因についても考えます。

Pilgrimage: Journeys in Search of Meaning
人間の精神表現の一つである、聖地に赴く「巡礼」に焦点を当て、巡礼が社会的な営為の行動から巡礼とこれから社会・経済や文化に影響をもたらしてきたかについて学びます。

Overview
Experiential
Faculty

Global Studies

**海外留学生と共学。
3つの学問分野から
グローバル社会の課題を探求する。**

科目例

Humanities
私たちが人間の心や行動、生活で起こることについて様々な視点で探求する。

History of Asia
アジア社会間の相互作用やアジア地域の歴史を「グローバリゼーション」から大き意味を通じて理解します。

Intercultural Communication
文化における認識、行動、価値観、文化的バラーンに焦点を当て学び、実践的なコミュニケーション能力を身に付けます。

Religion and Philosophy
日本における代表的な宗教思想を理解し、宗教の解釈に対するさまざまなアプローチについて学びます。

Social Science
社会と私たち個人の関係について探求する。

Survey in Sociology
社会現象や異認研究の基礎を学び、「社会学的想像力」を身に付けることをめざします。

Global Diplomacy and Asia
国家間のさまざまな戦略を分析し、国際的な普遍法定の解説や、国際関係に歴史がある影響について分析します。

Sustainable Development
国連本部が打ち出したSDGsの目標&中間で組み多新ちなし、持続可能な社会を実現するために必要な知識を身に付けます。

Business & Economics
企業活動の原理や仕組み、経済的な視点から私たちのより良い暮らしを探求する。

Global Economics
国際経済学の基礎知識を身につけ、国際貿易とお金の関係について学びます。

International Business
国際ビジネスの基礎を理解し、事例研究を通して問題的なビジネスを行ううえの戦略や経済的側面を探求します。

Global Leadership
グローバル社会をけん引するリーダーになるために、積極的やアクティビティを通じ、効果的なリーダーシップの修得をめざします。

Overview
Experiential
Faculty

Capstone

**4年間の学びの集大成を
グループで「カタチ」にする。**

本学部の授業や留学などを通して身に付けてきた
知識や能力、多角的な視点をプロジェクトに反映させ、
4年間の学歴成果の修了証づくりをします。

留学生とのグループプロジェクト
プロジェクトは留学生を含むグループで行い、それぞれの意見やアイデアを持ちよりながら問題解決のあり方を探ります。留学生との共同作業を通じ、チームワークやリーダーシップなどのスキルも磨きます。

社会問題の解決に取り組む
設定したテーマについて、3つの学問分野の視点からアプローチし、問題の分析や解決方法について考え発表します。

Overview
Experiential
Faculty

Life-long Learning

新たな挑戦の始まり。

国際共生学部で学びの実践を通して身に付けてほしいこと。それは、どのようなキャリアを選択しても、生涯にわたって「学び」続けることの姿勢。そして、生涯にわたってグローバル社会との関わりを持ちながら、自らが置かれた立場でできることを実践することなどです。つまり、本学部の卒業は、ゴールではなく、世界とハラフールドでの新たな「冒険」の始まりを意味します。また、この学部での学びを通して出会った世界中の仲間とのつながりは、その「つながり」を通じて、世界に飛躍されれば、より現在も未来を見つめ直すことができるのではないでしょうか。

国連が提唱するSDGs(持続可能な開発目標)では、17のゴール・169のターゲットを通して、「誰一人取り残さない」(leave no one behind)持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現をめざしています。これらの目標が達成できるかどうかは、社会を構成するメンバーAJCCの、社会の課題をこれだけ自分事として捉え、改善に向けて行動を起こす力・思考のいちにちにかかっています。国際共生学部ではこうした取り組みを持続する人たちの集団でもあり、国際共生学部は、持続可能な社会実現一助になることをめざしています。

> 想定される卒業後の進路
> グローバル企業、国際協力機関、国家公務員、大学院進学 など

PDF カリキュラムはこちら

Overview
Experiential
Faculty

Special Features

GLOBAL COMMONS 結 -YUI-
国際共生学部でグローバルチャレンジ入試に不入学したさは、希望者全員優先的にGLOBAL COMMONS 結 -YUI-へ入居できます。
詳しくはこちら >

Project-based Approach
講義形式型学習法を取り入れた授業を展開し、自ら課題を発見し、解決する力を磨きます。また、自分たちでプロジェクトのテーマを設定し取り組むことで、自ら考え行動する姿勢を身に付けます。

Content-based Learning
学習する言語そのものではなく、教材の内容(コンテンツ)を学ぶことを中心とした、外国語で、国学ぶのはが、知識で他和的思考力などの向上をめざします。

留学生との共学
多様な文化背景を持つ留学生との協働を通じ、より高度な異調見力のほか、異文化理解力や課題解決力、チームワークといったグローバル市民として必要なスキルを養います。

"グローバルチャレンジ留学"

海外に学びに活動の場を広げ、課題解決に取り組む。

関西外大がこれまで積極してきた留学プログラムを活用して、グローバル社会の課題解決に取り組む留学です。原則1年間の留学で、留学前にテーマを設定し、海外協定大学での学修や現地活動などを活用して、実践的に課題解決に取り組みます。

留学の流れ（6年制／8年制）

留学準備 → 留学 → 帰国

- 1年目～3年目の前期：
- 4年目～6年目：
- 協定校での学び
- 協定校でのプロジェクト活動など
- 3年目の前期～
- 4年目～6年目：

関西外大の国際交流の実績

国際交流・留学先
55カ国 395大学

年間海外派遣学生数
約2,000人

独自の相互協定留学者受入実績

フルスカラシップ 約200人　スタンプ 約610人

とりつる 2024年度
派遣人数約1,200人のうち
約50%(約600人)相当が
交換プログラム(相互協定)
約40%(約480人)が…

Overview
Experiential
Faculty

FACULTY

Overview
Experiential

尽きることのない
国際協力への想い。

文化が異なる国の人々との協働は、
難しいと感じる瞬間もあると思います。
しかし、それが現実の社会なのです。

米村 明美 国際共生学部 国際共生学科 教授 ＋ プロフィール

きっかけはラジオ英会話。

小さい頃はアメリカのドラマや、世界を旅するドキュメンタリーをテレビで見ることが好きで、いつか海外に行きたいと思っていました。英語を勉強し始めたのは小学生の頃です。担任の先生から「弟がラジオで英語を勉強して、オーストラリアに留学した」という話を聞き、海外に行けたら思った私は、中学生になるや否や、毎朝1日も欠かさずNHKのラジオ講座で英語を勉強するように。関西外国語大学のことを知ったのも、そのテキストの広告でした。費用面で短期大学を選択し、うまく行けば4年制大学に編入学しようと考えていましたが、最終的には、数年働いた後、大学院まで進みました。大学卒業時には、就職活動はせず、英会話講師の仕事などをしていましたが、海外に行きたいという思いは変わらずあったため、後に外資系企業に就職してからも、留学資金を貯めるため、英会話講師も続けていました。

途上国開発に貢献したいという想い。

あるとき青年海外協力隊の募集を見て、途上国の開発に興味を持ちました。その後、青年海外協力隊の試験を受けたのですが落ちてしまい、ほかに方法がないか探していたところ、国際協力の分野で有名な大学院、スクール・フォー・インターナショナル・トレーニング（SIT）のことを知り、アメリカへの留学を決断しました。その大学院では、国際関係・国際開発分野で働いている卒業生とインターンシップ先をつないでもらうことができ、私はこのインターンシップをワシントンDCですごすことになりました。その後、日本のシンクタンクに安全保障、価格リサーチなどさまざまな情報を提供するコンサルティング会社で働きながら、ワシントンDCで多彩な人たちとの交流を続けたところ、米州開発銀行でコンサルタントとして働く機会を得ました。米州開発銀行からオファーがあった時、同時にニューヨークに支店を持つ日本の銀行からもオファーがあり、どちらを選ぶべきかとても悩みました。米州開発銀行で1年間の契約で延長保証のないところでリスクをとるか、あるいは、住んだかった街で長期間働ける可能性のある道を選ぶのか。しかし、自分の原点を思い返してみたところ、金融の仕事をしたいだろうか、いや、私がやりたいことは「途上国の開発援助」。その道につながる方へ進もうと、米州開発銀行で働くことにしました。私が担当したのは、ラテンアメリカ・カリブ諸国への人材開発援助のサポートやプロジェクトのモニタリングなどでした。そこで気付いたことは、米州開発銀行はPh.D.などの専門性が必要であるということ。そのため、国際機関にたくさん卒業生を送り込んでいるコロンビア大学で、国際教育開発の博士号を取ろうと入学を決めました。コロンビア大学では、専門家を紹介してもらったり、世界銀行やユニセフの職員の講義や、ノーベル経済学賞受賞の経済学者、ジョセフ・スティグリッツの講演を聞いてもらったり、アドバイザー教授のフルサポートを受けながら、ブラジルの貧困や教育に関する政策の研究をしました。

ユネスコに就職、大学院修了、開発途上国勤務。

国際機関には、各国政府の費用負担を条件に若手人材を受け入れる制度がありますが、これには年齢制限が設けられているため、当時、30代後半だった私は応募資格がなく、組織に直接申し込むという選択肢しかありませんでした。そのため、コロンビア大学在学中、就職活動を続け、教育の国連専門機関であるユネスコの公募に適切なものが見つかったので応募しました。運良く、私の米州開発銀行での経験が、ユネスコが求める経歴と一致していたため、ニューヨークで面接を受けて、オファーをいただきました。しかし、タイミング的には、大学のコースワークを終えた時で、論文は書きながら書き終えることにし、大学のあるニューヨークを去り、ユネスコ本部のあるパリに移りました。ユネスコはスタディーリーブという休暇制度も充実しているので、政府にわたりブラジルのフィールドリサーチに行ったり、ニューヨークに執筆活動やディフェンスなどのために短期滞在したりして、博士論文を書き終えたのはイソド勤務中でした。ユネスコには19年7月有籍しました。最初はパリの本部に勤務していましたが、現地に滞在できるフィールドオフィスで働きたかったので、開発途上国で合計13年働きました。最初のフィールドオフィスは、インドのニューデリー事務所。そこでは教育プログラム長として、南アジアのSDG加盟を担当していました。次にアフリカに移り、エチオピアでは全アフリカ54カ国の経済協成研究所で移民問題に関わり、セネガルのグローバル事務所では西アフリカ7カ国の担当のほか、SDGsの準備をするため、サハラ以南アフリカ教育大臣会議を担当するなど、幅広く活動していました。パリの本部では対外協力と高等教育の部門で加盟国193カ国と連携して、国際会議、研究などの分野で活動しました。

生涯学び続けられる人に。

どんな形でスタートでもいいんです。学びのモチベーションにつながるが「一生かけてやりたい」と思えることなどと、「もっと知りたい、変えたいなど思えるようなことを自ら発見し、一一貫性をもって選択し続ければ、必ず結果へなって返ってきます。国際共生学部の授業には、多国籍なメンバーとのグループワークも数多くあります。言語の違いはもちろんですが、国によって多様な文化・考え方があるため、やりにくいと感じる瞬間が必ずあります。しかし、それが現実の世界です。この現実の世界において、自らの役割に気づき、生涯の学びにつながる動機の発見につなげてほしい。学生のみなさんには、「自分の考え方が間違っていることに気づいたら、そこから考え方を変えていける柔軟性を持っている人」や「生涯学び続けられる人」そんな人をめざしてほしいです。

Overview
Experiential
Faculty

Messages from Faculty Members
教授陣5人からのメッセージ

Design your own life!

Arif Iqbal Professor

科目 *Foundation for Global Engagement* ***Managing Yourself***

I have over 25 years of rich and diverse leadership experiences as a global Chief Financial Officer, a Board member, an Executive Coach, and an award-winning Professor of Leadership that enable me to create a unique blend of real-world classes that encourage my students to shift out of their comfort zones and to grow and become student leaders. I help students become more self-aware and self-confident, have a strong life purpose and meaning, and be successful in both global and/or Japanese companies.

Let's explore the curiosities and intricacies of religion and society

John A. Shultz Associate Professor

科目 *Foundation for Global Engagement* ***Pilgrimage: Journeys in Search of Meaning***

I am a specialist on Japanese society and religion and am also an expert on the culture of pilgrimage. I am profoundly interested in topics with regard to understanding human beings, including religion, the pursuit of wealth, and the culture of war. It is my humble wish to share enthusiastically the curiosities and intricacies of these topics with Kansai Gaidai students. My academic life is not compartmentalized; rather, my research pursuits and classroom activities are deeply intertwined. My non-academic passions include exercise, outdoor adventure sports, and coffee.

I'm fascinated by the role language plays in our lives

Heather M. Austin Assistant Professor

科目 ***Language & Society***

Language and Society, Global Communication, and Diversity and Equality in Contemporary Literature are just a few of the thought-provoking courses that I relish teaching. My classes are often influenced by my professional and scholarly interests, including discourse analysis, sociolinguistics, cognitive linguistics, and educational technology. As a linguist and language enthusiast, I'm fascinated by the role language plays in every aspect of our lives, and I enjoy instilling this fascination within my students through interactive group discussions, team-based activities, and project-based tasks. I'm excited to work with students who are motivated to investigate, understand, and respond to global topics and issues.

Learning to find and actualize our own voices in public and intellectual discourses

Hyunjung Lee Professor

科目 ***Topics in Literature***

My research covers contemporary theatre productions, literature, and cultural studies with a focus on urban Asia. I have a diverse teaching background having previously taught in the U.S., South Korea, and Singapore before joining Kansai Gaidai in 2017. The interdisciplinary approach and rationale of my courses are aimed to encourage the students not only to consider the aesthetic and literary aspects of dramas and other types of fiction but also to see how artworks and socio-historical contexts reflect each other. My classroom is open to students who are keen to develop their intellectual passion and curiosity, and to enrich their cultural understanding.

Analyzing the History of Japan, Asia, and the World

Scott C. M. Bailey Associate Professor

科目 ***History of Asia***

I enjoy teaching my courses in the history of modern and contemporary Japan, film and history, Asian history, and world history. I carry out research on the history of travel in Asia and the Pacific, especially during the nineteenth century. I have published books and articles on topics related to global history, travel, and film and history. My classes are highly interactive, with student group discussions a central element of every session. I always look forward to welcoming students in my classes who are ready to engage with ideas and pose thoughtful questions.

Copyright © Kansai Gaidai University. All rights reserved.

国際共生学部

2023年4月開設予定
（仮称・設置構想中）

4年間、オールイングリッシュ。
世界レベルで学ぶ。

COLLEGE OF GLOBAL ENGAGEMENT

2023年4月、関西外大は「国際共生学部」を新設します。
50年以上にわたる国際教育の実績と、
55カ国・地域395大学に広がる学びの場を最大限活用し
世界中の学生たちと多様な文化や
価値観を共有しながら、
共に学び、行動し、「実践力」を磨きます。
グローバル社会の課題解決にむけて、
今、動き始めます。

関西外大
KANSAI GAIDAI UNIVERSITY

COLLEGE OF GLOBAL ENGAGEMENT

［ 国際共生学部 国際共生学科※ ］

定員100人（海外からの編入学生30人含む）

※仮称・設置構想中

Engage with the World

多文化共生社会で、新たな価値を創造できる人に。

ENGLISH FOR GLOBAL CITIZENS

グローバル市民としての基礎力

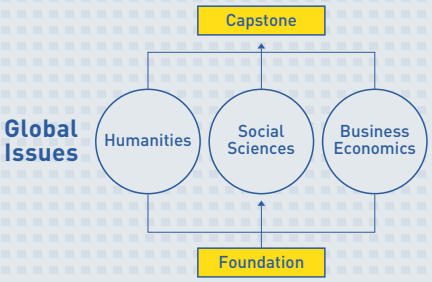
グローバル市民として異なる言語や文化背景を持つ人たちと円滑にコミュニケーションができる力を養います。デジタルリテラシーに加え、英語の技能をteam-based, project-based learningなどのアクティブラーニングを用いて、実践的なコミュニケーション力を高めます。

- Intensive Academic English
- Digital Literacy
- Active Learning

GLOBAL STUDIES

留学生とともに学ぶ3つの分野

留学生とともに英語で学ぶ授業は、人文科学（Humanities）、社会科学（Social Sciences）、ビジネス・経済学（Business・Economics）の3つの分野から幅広く履修します。グローバル市民としての知識と教養が身に付くよう、体系的に科目が配置されたカリキュラムが特徴です。



EXPERIENTIAL LEARNING

体験を通して養う実践力

最も特徴的な取り組みが「Experiential Learning」、つまり実践型の学びです。国内外でのインターンシップ、海外協定校が提供するサービス・ラーニングなど実践的な学びの機会が多数用意されています。これらの学びと活動はポートフォリオを通して可視化し、卒業後のキャリア設計につなげていきます。

- Study Abroad（留学）
- Service Learning（サービス・ラーニング）
- Projects（プロジェクト）
- Internships（インターンシップ）など

TOPICS 01 グローバルチャレンジ留学で課題解決に取り組む

関西外大がこれまで構築してきた留学プログラムを活用して、グローバル社会の課題解決に取り組む留学です。原則1年間の留学で、留学前にテーマを設定し、海外協定校での学修や課外活動などを活用して実践的に課題解決に取り組みます。留学奨学金は、フルスカラシップまたはスカラシップが支給されます（留学には資格審査があります）。

TOPICS 02 留学生との協働を通してグローバル市民として成長する

本学の教育施設「GLOBAL COMMONS 結 -YUI-」での留学生との共同生活や、学生主体で企画・運営する国際交流プロジェクトを通した留学生との協働など、キャンパス内でも多様な文化や価値観を学び、グローバル市民としての視点を育みます。

※設置計画は予定であり、内容に変更が生じる可能性があります。

関西外大
KANSAI GAIDAI UNIVERSITY

関西外国語大学・関西外国語大学短期大学部

国際共生学部 国際共生学科※／英語キャリア学部 英語キャリア学科、英語キャリア学科 小学校教員コース／外国語学部 英米語学科、英語・デジタルコミュニケーション学科※、スペイン語学科／英語国際学部 英語国際学科／短期大学部 英米語学科　※2023年4月開設予定（仮称・設置構想中）

［中宮キャンパス］〒573-1001 大阪府枚方市中宮東之町16-1 TEL: 072-805-2801（代表）　［御殿山キャンパス・グローバルタウン］〒573-1008 大阪府枚方市御殿山南町6-1 TEL: 072-805-2701（代表）

新学部 新学科 誕生

2023年4月

さらに踏み出す 新たな一歩。

「世界とともに、より良い未来を築く」という
その使命を全うするために、
関西外大は、時代の変化を常に見据えながら
積極的に教育内容の刷新を行ってきました。
そして、2023年春。
関西外大は、また新たな一歩を踏み出します。
課題の多様化・複雑化が加速し続ける
これからのグローバル社会に必要とされる人材育成をめざして
新学部と新学科を開設。
さらなる未来へと邁進します。

KANSAI GAIDAI UNIVERSITY
—
since 1945

外国語学部
英米語学科
School of English Language and Communication
since 1966

短期大学部※
英米語学科
Division of English and American Studies
since 1953
※1992年名称変更

外国語学部
スペイン語学科
School of Spanish Language and Communication
since 1966

英語国際学部※
英語国際学科
School of Global Communication and Language
since 1996
※2014年改組・名称変更

英語キャリア学部
英語キャリア学科
School of International Professional Development
since 2011

英語キャリア学部
英語キャリア学科
小学校教員コース
School of International Professional Development Elementary Education Program
since 2013

新学部
国際共生学部
College of Global Engagement
国際共生学科
［ 仮称・設置構想中 ］

新学科
外国語学部
英語・デジタル
コミュニケーション学科
School of English and Digital Communication
［ 仮称・設置構想中 ］

国際共生学部※
国際共生学科

College of Global Engagement

（仮称・設置構想中）

※設置計画は予定であり、内容に変更が生じる可能性があります。

4年間オールイングリッシュで学び、世界の人々と協働して新たな価値を創造できる人材へ。

グローバル化の進展や急速な情報化など、社会は大きく変化しています。複雑化した社会のなかで異なる文化背景を持つ人々との協働はより一層重要となることでしょう。こうした多文化共生社会では、高度な英語運用能力はもちろん、多様な背景を持つ人々を理解する姿勢や価値観、同じ目的に向かって協力しあえる、実践的なコミュニケーション力が必要です。国際共生学科では、4年間、留学生とともにオールイングリッシュで学べる環境を整備。学科独自の「グローバルチャレンジ留学」やサービス・ラーニングなど、体験型学修により、世界の人々と協働し、新たな価値の創造へとつなげる力を育てます。

Engage with the world as a global thinker and leader

The B.A. in Global Engagement is for those students who want to make a positive difference in the world and engage with their peers in solving some of the globe's most significant challenges. Intensive English courses, daily interactions with international students in and outside of the classroom, study abroad opportunities, experiential learning, and a capstone project will give students the knowledge, skills, and passion to become active global thinkers and leaders.

国際共生学部 国際共生学科長（就任予定）
BOHAKER, Linda 教授

Professor Bohaker obtained her M.A. L.D. from Tufts University and her M.A. from Washington University. She is a multidisciplinary professor with 25 years of experience teaching business management and Japanese history to both Japanese and international students. As a strong advocate of studying abroad, she loves preparing Japanese students to study abroad, knowing how much that experience will change their lives.

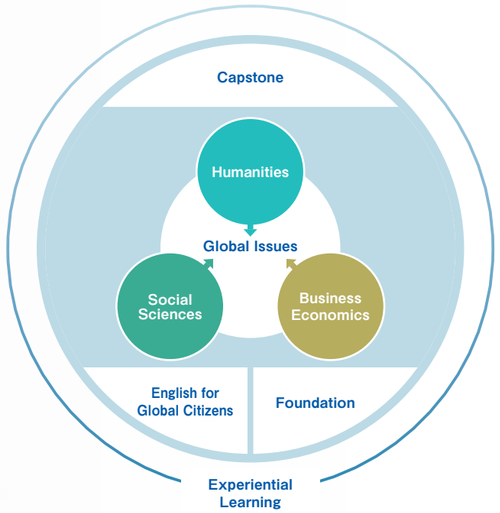
STUDY ｜ 世界標準の授業をオールイングリッシュ開講、留学生とともに学ぶ

グローバル市民としての基礎力を身に付ける

グローバル市民として必要な英語実践力とコミュニケーション力を養います。また、デジタル化が進む社会において不可欠なデジタルリテラシーや多文化共生社会を生きるための力をteam-based, project-based learningなどのアクティブラーニングを用いて高めます。

3つの専門分野を留学生とともに学ぶ

2年次開講のFoundation（導入科目）で、自らのキャリアについてのマインドを醸成。自らと向き合いつつ、キャリア形成について考えます。留学生とともに学ぶ科目は、海外の大学と同等の"世界標準"の授業をオールイングリッシュで展開。「人文科学」「社会科学」「ビジネス・経済学」の3分野から、幅広く履修します。また4年次には、Capstoneを履修し、留学生と一緒にグローバル社会の課題解決に向けたグループプロジェクトに取り組みます。



Humanities 人文科学	歴史、文学、宗教、哲学、コミュニケーションなどについて学ぶ。
Social Sciences 社会科学	国際関係、国際政治、法学、社会学のほか、国際機関や持続可能な開発などについて学ぶ。
Business・Economics ビジネス・経済学	マーケティング、ミクロ経済、マクロ経済、経営戦略、国際経済などについて学ぶ。

実践力を磨く体験型学修「Experiential Learning」

国内外でのインターンシップ、海外協定大学が提供するサービス・ラーニングなど体験的な学びの機会が多数用意されています。さまざまな活動を通し、授業で学んだことを実社会で生かしながら高度な実践力を身に付けます。これらの学びと活動はポートフォリオで可視化し、卒業後のキャリア設計につなげていきます。

主なプログラム（予定）

- Study Abroad（留学）
- Service Learning（サービス・ラーニング）
- Community Based Learning（地域密着型学修）
- Project Engagement（プロジェクト）
- Internships（インターンシップ）
- Talent Development（タレントデベロップメント）
- Leadership Program（リーダーシッププログラム）

など

▶ Study Abroad ｜ グローバルチャレンジ留学

自らが選んだグローバル社会の課題と海外で向き合い、解決に向けて行動する。

「Experiential Learning」の一環として、海外でグローバル社会の課題解決に挑戦するグローバルチャレンジ留学。世界が抱える諸問題のなかから、自分が取り組みたいテーマを設定し、1年間の留学先での学びや体験を通して課題解決の方法を探ります。留学中は授業だけでなく課外活動などにも積極的に参加するなど海外での実践的な学びを通して、グローバル市民としての成長を図ります。

目標とするキャリアイメージ

● グローバル企業 ／ ● 国際機関 ／ ● NGO ／ ● NPO ／ ● 国家公務員 など

国際共生学科の詳細についてはこちらにアクセス →